

戸沢村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は稲作が中心となっているが、計画性なく拡大したため、集積が進んでいないことが課題である。平成23年から平成30年にかけて256haの経営体育成基盤整備事業を行い、面積の集積率を20%以上増加させる予定となっている。

また、農家者の高齢化が進むことに加え、農家戸数の減少がみられる。

作付面積が大きいそばについては、天候変動の影響が大きく、年次による変動が顕著となっている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

直播栽培や共同防除による低コスト生産を推進し、本村の基幹作物である米の作付維持を図るため、売れる米づくりに努めていく。また、需要動向に合わせて、生産数量目標に沿った作付面積を確保する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の一部とし、産地交付金を有効に活用した多収性品種導入や直播栽培等低コスト生産の導入により、生産拡大を図る。また、集荷業者と連携を密にして、需要動向に合わせて生産拡大を図る。

イ 加工用米

産地交付金を活用した複数年契約の推進により、集荷業者と連携を密にして、需要動向に合わせて生産拡大と維持を図る。又、直播栽培等の取組の推進により低コスト生産を目指す。

ウ 備蓄米

備蓄米の動向を注視しながら集荷業者と連携を密にして作付を維持していく。

(3) 飼料作物

平成26年の飼料作物の水田への作付は5haである。実需者と連携を密にして、需要動向に合わせて生産維持と拡大を図る。

(4) そば

作付が広大・広範囲であるため、刈取りや乾燥調製については、綿密な打ち合わせを行い、刈り遅れ等の無いようにする。

また、天候変動の影響が大きく、排水対策等の技術的な課題があることから、村単独の農地再生利用支援事業等を使い対策を図る。産地交付金を活用し、実需者との契約に基づき、栽培面積拡大を図る。

(5) 野菜

にら、トマト、ねぎ、いちご、きゅうり、エゴマ、シシトウ、パプリカ、ピーマン、リンドウに合わせ、今年度からは冬作物のたらの芽も重点振興作物に取り入れることで、村の重点作物として栽培面積拡大をすることにより、農業所得の向上を目指す。産地振興作物を置くことで、不作付地の解消や農業所得向上を図る。

さらに、トマト・パプリカを中心とした施設園芸に対して、産地交付金を活用し助成を行ない施設園芸の推進及び面積の拡大を図っていく。

(6) 不作付地の解消

生産数量目標の縮小や離農等により、不作付地は約30haと拡大傾向にある。村の再生利用支援事業や農地中間管理機構等を利用し、毎年1haずつ不作付地の解消に努めていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	885	820	793
飼料用米	3	33	34
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米	33	5	6
備蓄米	31	86	87
麦			
大豆			
飼料作物		6	7
そば	276	281	282
なたね			
その他地域振興作物	35.56	63.40	71.7
・パプリカ	1	1.5	2.5
・トマト	4	5.0	8.0
・ネギ	6	6.0	6.5
・ニラ	3	3.0	4.0
・エゴマ	2	3.0	4.0
・キュウリ	0.4	0.7	1.0
・イチゴ	0.25	0.3	0.4
・シシトウ	0.25	0.3	0.4
・ピーマン	0.26	0.3	0.4
・リンドウ	1.3	2.0	3.5
・たらの芽	2.1	2.5	4.0
・その他野菜	15.0	38.8	39.0

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	パプリカ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	1.0	1.5	2.5
1	トマト	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	4.0	5.0	6.0
1	ネギ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	6.0	6.0	6.5
1	ニラ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	3.0	3.0	4.0
1	エゴマ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	2.0	3.0	4.0
1	キュウリ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	0.4	0.7	1.0
1	イチゴ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	0.25	0.3	0.4
1	シントウ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	0.25	0.3	0.4
1	ピーマン	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	0.26	0.3	0.4
1	リンドウ	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	1.3	2.0	3.5
1	たらの芽	村が重点的に振興 する作物の生産	ア	作付面積	2.1	2.5	4.0
2	飼料用米	多収栽培等の生 産性向上の取組	ア	取組面積	3.0	33.0	34.0

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| <p>ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組</p> | } |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|